2020年2月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第517号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体136円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

まつやま書房『北武蔵の和算家』が
地方出版文化功労賞特別賞を受賞

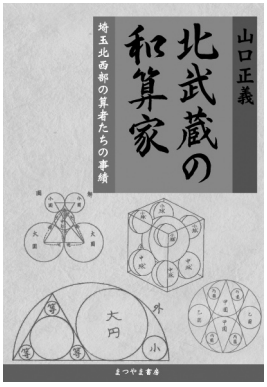
文・まつやま書房代表　山本正史

小社発行の山口正義著『北武蔵の和算家―埼玉北西部の算者たちの事績』が第32回地方出版文化功労賞の特別賞をいただいた。この本の特性は、選考理由の終わりに端的に述べられている。「かなりコアな内容であり、算術の問題も理解しにくいことから広く読書を勧められないという意見もあったが、忘れられようとしている地域の文化について書かれた貴重な本であり、郷土資料として図書館などに所蔵されるべきものであると思料、（中略）なお、具体的な多数の資料、付録、索引の充実も今後の参考資料としての価値を高めている」という点に尽きよう。

現在、計算式は５００÷２５＝、というように計算する。しかし、江戸時代は洋数字ではなく、和数字である。つまり、現代人の計算方法では江戸時代の和算は理解できないのである。

著者から出版したいのだがと話が来たのは、著者が『天文大先生千葉歳胤のこと』(2009年)を出してから間もなくのことであった。『天文大先生』は埼玉県飯能市出身の江戸時代中期の天文学者千葉歳胤の事績を記したものであった。日食、月食も当時計算されており、その計算方式は当然和算であった。

『北武蔵の和算家』では、著者は既に厚い自家版を何刷りも発刊していた。北武蔵の何処の神社に何々が額として掲示されていると、熱心に語ってくれた。何年もの時間をかけてまとまった労作であった。



【北武蔵の和算家　埼玉北西部の算者たちの事績】山口正義著
出版社名：まつやま書房
出版年月：2018年2月
ISBNコード：978-4-89623-111-3
税込価格：2,750円

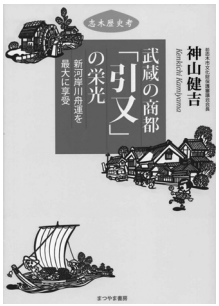
『北武蔵の和算家』の選考理由はまた次のようにも記している。「著者は関孝和を生んだ上州などと異なり、取り上げられることの少ない、今となっては名も忘れられた北武蔵のたくさんの算者達に、資料などの失われる前に光を当て、記録として残そうと丁寧な調査を進め実現している。さらに著者の意図を超えて、その時代の日本国内の純粋に知的意欲に基づく和算熱の広がりも想起させる」と。

楽しい江戸時代の地方歴史書は少ない

江戸時代、飢饉や自然災害はしばしばあったものの、それなりに平和な穏やかな時代が続いた。しかし、各市町村で公刊された江戸時代史通史は読んで楽しい本ではない。農村の経済分析などに集中しているからである。江戸時代三百年弱の期間、こんな出来事があった、この飯はうまい、この門前町は面白い、と描いたその地方の歴史書は意外に少ないのである。

小社がある東松山市に駅から歩いて３分の所に箭弓稲荷神社という広い敷地と大きな拝殿・本殿の神社がある。この神社は古来よりあったとされるが、大きな神社となったのは江戸時代中期に当地を治めた旗本が敷地を寄附し、市内の商人が基金を集め、建物を建立したとの話が残っている。中途でおカネが足りなくなって、休止したとのことであるが、ようやく完成し、江戸や近在からの参拝する人が多く、大変賑やかであったと当時の刊行本に紹介されている。また、俳人の小林一茶はふる里の信州に戻る途中、この箭弓神社の俳句も詠んでいるのである。しかし、この巨大な神社の建立には中途でカネに困ったのであるから、さぞさまざまな出来事があったと容易に推測されるが、そのいきさつを語る文書は残っていない。寺子屋などの教育機関はかなり普及し、多くの人が読み書きそろばんはできたのであろうが、地方の出来事を記す本や文書は少ないのである。

埼玉県志木市の街並みの歴史を記した神山健吉著『武蔵の商都「引又」の栄光―新河岸川舟運を最大に享受』は、「引又」の舟運、宿場町、名主交代の実例、すべての道は引又に通じる、豪商の結婚の実態、



水車の存在など、商業都市を多角的にいきいきと描いた著書であった。この本を刊行できたことで、「つまらない江戸時代地域通史」の常識は脱皮できると思った次第である。

「土蔵（くら）売れて」と詠んだ春秋庵代表

「土蔵（くら）売れて日当たりのよき牡丹哉」と詠んだのは、埼玉県毛呂山町の俳人であった。内野勝裕著『橿寮碩布（きょうりょうせきふ）と春秋庵をめぐる人々―武蔵山の辺の俳諧史』も江戸時代をいきいきと描いた著書である。碩布は江戸時代後期に俳聖と言われた松尾芭蕉の流れを継ぐ俳句結社・春秋庵の代表となったのである。しかし、結社を運営するのは、句集は発刊しなければいけないし、全国の俳友を廻らねばならないし、莫大なカネがかかる。そこで土蔵を売らざるを得なくなったのである。

『北武蔵の和算家』に戻れば、文化系に関心のある人は碩布とまでいかなくとも俳句や川柳、短歌、狂歌にのめり込み、師匠を呼んだり、俳句集を編纂したりしていた。一方、理科系に関心のある人はこの和算に注力し、神社やお寺に額を掲示したり、算術の知識を競いあったりしていた。そして、これらの和算の基礎力が明治維新以降の西洋文明の取り入れを可能としていったと言えよう。

この難解な本は売れないなとは思ったが、出さねばならないとも思った。そんな本を出版しようとしたのは、1980年に創業して40年が近づき、次男が参加して15年が経っていたからであろう。売れ行きは予想通りそれほどでもないものの、かなりコアな読者と、幸い和算の研究会が予想以上に多くあり、静かな和算ブームが発生しているようである。

（やまもとまさし・まつやま書房代表）

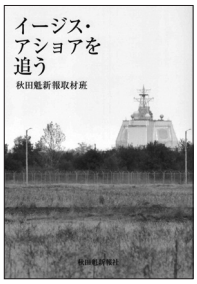
＊

『北武蔵の和算家』はA5判398頁、ISBN978-4-89623-111-3、定価2,500円＋税。『天文大先生千葉歳胤のこと』は46判237頁、ISN978-4-89623-054-3、定価1,600円＋税。『武蔵の商都「引又」の栄光』はA5判287頁、ISBN978-4-89623-104-5。定価1,800円＋税。『橿寮碩布（きょうりょうせきふ）と春秋庵をめぐる人々』は46判236頁、ISBN978-4-944003-18-8、品切れ。

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

『イージス・アショアを追う』●秋田魁新報取材班編著



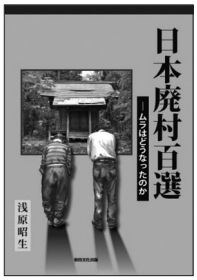
2017年晩秋、北朝鮮の弾道ミサイルに備えた地上配備型迎撃システム「イージス・アショア」配備候補地の一つを秋田市の陸上自衛隊新屋演習地とする政府決定を、秋田魁新報社の記者たちは全国紙の報道で文字通り寝耳に水のように知る。学校や福祉施設が立ち並ぶ住宅街に隣接する土地がどうして適地なのか。歴史的局面に秋田が直面している。地方紙からは遠い存在である政府の安全保障問題として手をこまねき、全国メディアの後追いばかりしていていいはずがない。記者たちの熱い情熱と気概が突き上がる。

そもそもイージス・アショアは何なのか。世界で唯一実践稼働しているルーマニアの米軍デベセル基地と周辺地域を訪ねる。地方紙が特定テーマで海外に独自取材することは並大抵のことではない。これまで全く足を運んだことがなかった防衛大臣の定例会見にも欠かさず出席し、鋭い質問を投げかける。圧巻は防衛省がまとめた101頁の調査報告書を徹底検証し、適地の根拠とした地形断面図に示された9ヵ所の山の仰角の誤りを指摘する過程だ。初めから新屋演習地ありきの捏造ともいえる数値である。局面は大きく変わり、防衛省は適地の再調査に追い込まれ、参院選では配備反対の野党統一候補が勝利する。

地道な取材で事実を掘り起こして積み重ね、何物をも恐れずに真実を伝える。全社を上げての足かけ2年に及ぶ取材と報道の迫真のドキュメンタリーである。

◆1600円・A5判・299頁・**秋田魁新報社**・秋田・201912刊・ISBN9784870204102

『日本廃村百選　ームラはどうなったのか』●浅原昭生著



「廃村」と聞くと、何が思い浮ぶでしょうか。朽ちた廃屋や廃校の校舎、雑草が生い茂る荒れた田畑が思い浮かぶかもしれません。勿論、そのような廃村も存在しますし、本書にも登場します。しかしそれは廃村の姿の１つでしかありません。学校や集落の記念碑が建っていたり、元住民が通い作で田畑を管理していたりします。さらに、神社の例祭が行われているところもあります。

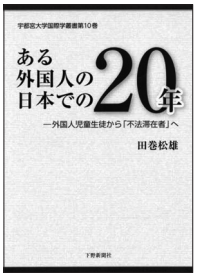
本書では北海道から沖縄まで、全４７都道府県に存在する廃村のうち、筆者が実際に訪ねて「特に印象深い」と感じた１００箇所が取り上げられています。人口統計や集落の現況など、研究色が強い部分もありますが、探訪の記録は客観的に捉えられており、分かりやすい内容です。また、「集落の記憶」として元住民への聞き取り記録が掲載されていますが、かつての暮らしや集落を離れた背景、現在の故郷への想いなどが綴られており、地方史の記録にもなっています。都市部への人口の一極集中、それに対する地方の不便な地域の人口減少は今後も続き、同時に新たな廃村が生じていくのはやむを得ないことなのでしょう。しかし、ただ成り行きにまかせていることは、良いことではありません。

本書は、現在のムラの姿、そしてムラの将来、ひいては日本の未来について一石を投じる内容になっています。本書を読めば、廃村に「朽ちた、荒れた」といったイメージを持たれていた方も、その意識が覆ることでしょう。

◆2000円・四六判・280頁・**秋田文化出版**・秋田・202002刊・ISBN9784870225893

この「新刊ダイジェスト」のバックナンバーを弊社Ｗｅｂサイトにたくさん掲載してます。アドレスは下記の通りです。
ＱＲコードもご利用ください。URL：http://neil.chips.jp/chihosho/digest/index.html

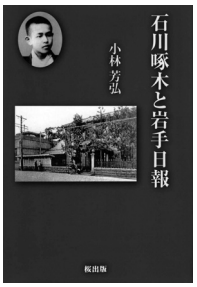
『ある外国人の日本での２０年　－外国人児童生徒から「不法滞在者」へ』●田巻松雄著



1998年両親とともに10歳でＴは来日しました。中学校に入ると、いじめなどから不登校となります。悪い友人と出会い非行に走り、少年院にも二度入院しました。退院後には就職していますが、それもリーマンショックの影響で解雇されてしまいます。そして職場で知り合った友人に誘われ再び罪を犯し逮捕され、懲役７年の実刑判決を受け服役します。2017年10月にようやく出所。そんなＴを待ち受けていたのは、日本での再起ではなく、入国管理局の長期収容でした。Ｔは服役中に在留期間の更新が認められず不法滞在者となっていたのです。以来収容は続き2019年７月時点でも収容されたままです。以前は仮放免が相当行われていたようですが、近年は他にも多くの長期収容者がおり、被収容者の人権について問題となっています。彼らは母国に生活の基盤がなく、帰国という道は選び難いものです。Ｔも母国には疎遠な親戚しかおらず、言葉も巧みではありません。また一度日本を出国すると、犯罪歴のため再入国は厳しく、家族にも会えなくなってしまいます。なぜ刑期を満了したにもかかわらず、更生の機会が与えられないのでしょうか？そして母国へ戻るのが著しく不利益なのになぜそれ以外の選択肢が示されないのでしょうか？残念ながら裁判所もＴのそういった訴えには耳を貸してくれませんでした。ひとりの外国人の人生を辿ることで、日本人や日本政府が外国人をどう見つめているのかも浮き彫りにされてきます。

◆2000円・Ａ５判・204頁・**下野新聞社**・栃木・201910刊・ISBN9784882867432

『石川啄木と岩手日報』●小林芳弘著

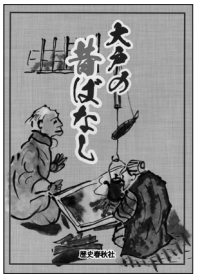


盛岡市に本社を置き、145年もの歴史を誇る岩手県内でシェア１位の岩手日報。その岩手日報と石川啄木とは長く深い関係があり、啄木が挫折を繰り返し、悩みながら日々を送る過程で岩手日報がどのように関わったかを国際啄木学会前盛岡支部長である著者が新たに発見した資料を基に明らかにしていく。

岩手日報に啄木の作品が初めて載ったのは明治34年12月。啄木15歳の時であり、以後26歳で亡くなるまで歌、詩、評論などが10年間にわたり掲載された。関連広告記事や消息記事も多く、他の県内紙に比較すると群を抜いている。岩手日報には主筆・福士神川、主幹・清岡等、恩師・新渡戸仙岳がおり、この三人との人脈がなせるわざだと考えられる。さらに啄木は晩年、東京朝日新聞に入社したが、盛岡出身の編集長佐藤北江の尽力があり、それには佐藤と親しかった福士の役割が大きかったことも解明された。彼らとの関係は三章を割いて論じられているが、本書の中で最も注目すべきは結婚式前後の謎行動を探った章である。一番力を入れた「あこがれ」の詩作と出版。しかし岩手日報に出版広告は載ったもののさほど売れず、のしかかる生活が不安で死すら考えた啄木。一方､広告掲載を節子ら家族は朗報と捉えたが、この齟齬ゆえ、啄木は式の日自体を知らなかったともいえる。また、立ち直ったきっかけなども考察する。独自の視点で丹念に研究した著者の力量が発揮され、新たな啄木の人間像が示されている。

◆1500円・四六判・253頁・**桜出版**・岩手・201912刊・ISBN9784903156309

『大戸の昔ばなし』●小林兵郎著



各地で悪事をはたらいていた堀主水（ほりもんど）という男が、会津にもやってきて領民を困らせていた。会津の殿様は一刻も早く捕らえよと、家臣をさし向ける。追手から逃げる途中、国境にある橋を渡ったところで堀主水は、保身のために橋に火をつけた。橋が燃えていることを村人に知らせようと大声を出し続けた橋守の老夫婦は腹が裂けて死んでしまった。一方堀主水は、あろうことか高野山まで逃げ延びて僧侶になって身を隠した…福島県会津若松市大戸町に伝わる昔話や伝説、数えうた、手まりうたなどを収録する本書の冒頭を飾るこの「おんば様」の長大な伝承は、現在その場所にかかっている橋そばの神社縁起譚になっているとともに、会津三十三観音の由来譚にもなっている。他に、村人の橋渡しの手助けをしてくれた蛇姫の話、なぜか婚礼で三三九度をやらない家の言い伝えや、柿や胡麻といった一定の作物を作らない地域のその禁忌の由来など、著者が長年に渡って地域の老人会、公民館で古老から聞き取り、郷土誌資料等から収集した伝承七十三話。地元の教員であったという著者のあとがきには「昔ばなしを収拾しようと思い立ったのは、大戸に残る昔ばなしを今収集し記録しておかなければ、やがて話す人も聞く人もいないままに暮石の下に埋もらすことになり、かけがえのない文化遺産を失うことになると考えたからです」と書かれている。遺稿を見つけたご子息が志を引き継ぎ、本書の刊行が実現した。

◆1400円・Ａ５判・178頁・**歴史春秋社**・福島・201911刊・ISBN9784897579610

『太田資正と戦国武州大乱　－実像と戦国史跡』●中世太田領研究会編著

太田資正の名は、曾祖父の太田道灌に比してあまり世に知られていない。けれども、江戸時代においては軍記物等に登場する英雄として庶民の間で有名な存在だったという。中でも『甲陽軍鑑』に記される、伝令犬を使って味方の窮地を救ったという逸話は広く知れ渡る。その奇想天外さが受けたのか、現代ではゲームキャラクターのヒーローとして人気に火が付いた。江戸時代の資正像は、関東管領上杉氏への忠義に徹し、強大な勢力の北条氏に孤軍奮闘した、知恵と勇気と反骨精神の持ち主として描かれた。でもそれは、あくまでもフィクションの中でのお話。実際は少し違ったようである。本書は、３人の研究者が各章ごとに分担執筆、様々な史料を駆使しながら資正の実像に肉迫していく。道灌死後の太田氏は、江戸太田氏と岩付太田氏とに分かれるが、資正は後者の系統であり道灌の曽孫に当たる。第１章では、太田氏の系譜を詳細に辿る。第２章では岩付城主時代の資正について考察。軍記物だと資正が岩付城主として北条氏と抗争を繰り広げたのは長い歳月に亘ったとされるが、実際は４年間に過ぎなかった。さらには資正が北条氏に服属していた時期もあった。なぜ齟齬が生じたか。その謎を探る。第３章は岩付太田氏の支配領域及び城館などについて。第４章は太田氏所縁の地を詳細に紹介する。最新の研究にも目が行き届いた本書は、太田氏の研究ならびに関東戦国史を研究する上において必読の書といえよう。

◆1800円・Ａ５判・352頁・**まつやま書房**・埼玉・201912刊・ISBN9784896231281

地方小出版 流通センター　ジャンル別 新刊案内

2019年12月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

【雑誌】

◆**Ｓ－ｓｔｙｌｅ**　０１　ｖｏｌ．６６１　プレスアート編　298mm × 232mm　160頁　４５０円　プレスアート［宮城］　978-4-503-21956-5　20/01

◆**ＳＰＲＩＤＥ**　ｖｏｌ．３４　２０２０年１・２月号　渡辺　直明編　Ａ４　112頁　９００円　下野新聞社［栃木］　978-4-88286-746-3　19/12

◆**ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ**　４８０　２０１９年１２月号　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２５４６円　地域環境ネット［埼玉］　978-4-909864-12-3　19/12

◆**響き合う街で**　Ｎｏ．９１　２０１９年１１月号　やどかり出版編　Ｂ５　60頁　１２００円　やどかり出版［埼玉］　978-4-503-21945-9　19/11

◆**ほほづゑ**　第１０３号　長谷川　智恵子編　Ａ５　127頁　５５６円　三好企画［千葉］　978-4-908287-29-9　20/01

◆**かまくら春秋**　Ｎｏ．５９５　２０１９年１１月号　伊藤　玄二郎編　Ｂ６　89頁　２９５円　かまくら春秋社［神奈川］　978-4-7740-0793-9　19/11

◆**詩とファンタジー**　第４０号　伊藤　玄二郎編　Ａ４　88頁　１２００円　かまくら春秋社［神奈川］　978-4-7740-0797-7　19/12

◆**調査情報**　Ｎｏ．５５２　２０２０年１－２月号　岩城　浩幸編　257mm × 160mm　96頁　７３６円　ＴＢＳテレビ［東京］　978-4-906908-81-3　20/01

◆**ＡＸＩＳ**　Ｖｏｌ．２０３　２０２０年２月号　石橋　勝利編　Ａ４　136頁　１６３６円　アクシス［東京］　978-4-503-21957-2　20/02

◆**地方史研究**　第４０２号　地方史研究協議会編　Ａ５　114頁　１１４３円　岩田書院［東京］　978-4-86602-852-1　19/12

◆**日本宗教文化史研究**　第４６号　日本宗教文化史学会編　Ａ５　103頁　２７００円　岩田書院［東京］　978-4-503-21948-0　19/11

◆**子どもと読書**　４３９号　２０２０年１・２月号　親子読書地域文庫全国連絡会編　Ａ５　40頁　５０９円　親子読書地域文庫全国連絡会［東京］　978-4-907376-40-6　19/12

◆**仏事**　Ｎｏ．２３１　２０１９年１２月号　奥村　昇編　Ａ４　88頁　１５００円　鎌倉新書［東京］　978-4-503-21932-9　19/12

◆**仏事**　Ｎｏ．２３２　２０２０年１月号　奥村　昇編　Ａ４　104頁　１５００円　鎌倉新書［東京］　978-4-503-21953-4　20/01

◆**月刊住職**　Ｎｏ．２５４　２０２０年１月号　矢澤　澄道編　Ａ５　193頁　１３６４円　興山舎［東京］　978-4-908027-74-1　20/01

◆**子どもの文化**　Ｎｏ．５８３　２０２０年１月号　片岡　輝編　Ａ５　47頁　２９０円　子どもの文化研究所［東京］　978-4-503-21959-6　20/01

◆**茶道の研究**　Ｎｏ．７６９　２０１９年１２月号　三徳庵編　Ａ５　86頁　５００円　三徳庵［東京］　978-4-503-21935-0　19/12

◆**セセデ**　ｖｏｌ．７０６　２０２０年１月号　朝鮮青年社編　Ａ４　48頁　４８１円　朝鮮青年社［東京］　978-4-503-21949-7　20/01

◆**東京かわら版**　Ｎｏ．５５７　２０２０年１月号　佐藤　友美編　204mm × 108mm　178頁　５４５円　東京かわら版［東京］

売行良好書

期間：2019年1月15日～2020年1月14日
※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

［出荷センター扱い］

(1)『医者、用水路を拓く』1800円・石風社　(2)『報道写真集　首里城』1000円・沖縄タイムス社　(3)『今日は誰にも愛されたかった　谷川俊太郎　岡野大嗣　木下龍也』1200円・ナナロク社　(4)『そらまめかぞくのピクニック』1300円・吉備人出版　(5)『たやすみなさい』2000円・書肆侃侃房　(6)『土佐の山城』2000円・ハーベスト出版　(7)『おはなし　聞いて語って』1364円・東京子ども図書館　(8)『石牟礼道子全歌集　海と空のあいだに』2600円・弦書房　(9)『甦れ！首里城』1000円・琉球新報社　(10)『たぷの里』1200円・ナナロク社　(11)『太田資正と戦国武州大乱　実像と戦国史跡』1800円・まつやま書房　(12)『柳家喬太郎バラエティブック』1637円・東京かわら版　(13)『明智光秀ゆかりの地を歩く』1500円・サンライズ出版

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］

(1)『太田資正と戦国武州大乱』1800円・まつやま書房　(2)『たやすみなさい』2000円・書肆侃侃房　(3)『東京かわら版　１月号』545円・東京かわら版　(4)『本の雑誌　４４０号』667円・本の雑誌社　(5)『土佐の山城』2000円・ハーベスト出版　(6)『今日は誰にも愛されたかった』1200円・ナナロク社　(7)『フリースタイル　４４』888円・フリースタイル　(8)『おすすめ文庫王国２０２０』800円・本の雑誌社　(9)『母の愛、僕のラブ』1800円・書肆侃侃房　(10)『医者、用水路を拓く』1800円・石風社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］

(1)『医者、用水路を拓く』1800円・石風社　(2)『歌集　ひとさらい』1200円・書肆侃侃房　(3)『そらまめかぞくのピクニック』1300円・吉備人出版　(4)『土佐の山城』2000円・ハーベスト出版　(5)『太田資正と戦国武州大乱　実像と戦国史跡』1800円・まつやま書房　(6)『調査されるという迷惑』1000円・みずのわ出版　(7)『歌集　砂丘律』1400円・青磁社　(8)『石牟礼道子全歌集　海と空のあいだに』2600円・弦書房　(9)『ダラエ・ヌールへの道』2000円・石風社　(10)『出雲王国とヤマト政権』2250円・大元出版　(11)『新訂　ジュニア版　琉球・沖縄史』1500円・編集工房東洋企画　(12)『薩摩藩の参覲交替』1800円・ラグーナ出版

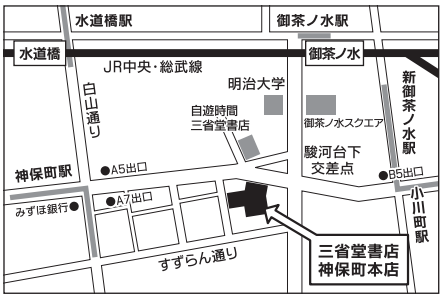
以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼公益社団法人日本印刷技術協会主催の印刷メディアビジネス総合イベント「page2020」において、２月７日(金)13:00からカンファレンス「小ロット出版を実現するデジタル印刷」が開催されるとのことです。以前、本誌【アクセス】2017年６月号で一面レポートをご寄稿いただいたデジタル・オンデマンド出版センター 代表取締役・浴野英生氏が、パネラーの一人として参加されます。場所：池袋サンシャインコンベンションセンター、参加費16,500円。「大量印刷・大量出版を前提とした出版エコシステムに限界が見えてきた。一方でデジタル印刷技術の進化により、少部数出版・流通の動きも進んでいる。米国では１部から受注する極小ロット印刷を積み上げ、月400万部以上の書籍を製造している印刷企業もある。在庫を持たないオンデマンド出版や極小ロットの重版は、オフセット印刷とデジタル印刷の各々の特徴を活かし、最適化を図る動きだと言える。印刷企業の立場から小ロット出版とデジタル印刷の現状や今後の可能性を議論する。」（page2020ホームページより https://page.jagat.or.jp/session/detail_13.html）。浴野英生氏の本誌【アクセス】への寄稿文『オンデマンド出版の活用で「出版の多様性」の持続と「品切れ重版未定」を死語に』は、弊社ホームページ【アクセスweb版バックナンバー】で読むことができます。(http://neil.chips.jp/chihosho/acj/acj201706-web.pdf)

【郵便販売のご注文方法】

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。送料は、冊子小包・メール便共実費です。
★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間 10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。